

平成30年度 檀原美容専門学校 学校評価計画表

教育目標	「自主」、「責任」の校訓に則り、地域で活躍できる美容師の育成を目指す。		総合評価
運営方針	個々の生徒の能力や個性を見極め、一人一人の力を最大限に伸ばす。		
	教育目標を全教職員が共有し、学校改善に向けて一丸となって取り組む。 地域の理解と応援が得られるよう教育活動の理解と広報に努め、学校関係者とのコラボレートに努める。		
○平成29年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	B
基本的な生活習慣、はじめと集中力のある生徒の育成を図る。(朝の挨拶運動を進め、遅刻の防止指導を充実させる) 技能五輪大会では、連続して入賞者を出したが、生徒全体の技能のレベルアップには繋がらなかった。より実践的な技術を身につけることができるよう組合関係者との連携を密にし、個々の生徒に応じた指導と可能性に挑戦できる環境づくりを進めたい。	国家試験合格に向けて、着実な学力向上を目指す。	カリキュラムを見直し、効果的な教材や授業法を工夫する。個に応じた指導法を検討する。	
	より実践的な技術力の向上を目指す。	各大会に向けて、より段階的な技術向上を図る。生徒同士の競争力を高める指導法を工夫する。	
	コミュニケーション力を育み、社会人としての素養を身につけさせる。	社会人としてのルールやマナーを身につけさせる。目標を明確にさせ、最後まで努力を続ける力を養う。	
	本校の一員であるということを実感させ「責任のある言動」を身に付けさせる。	決められた時間の厳守、与えられた役割を果たすなど「当たり前のことが当たり前」にできる生徒の育成。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策と評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			学校関係者評価 (結果・分析)
			自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	

※評価基準: 目標達成→A、目標値の80%達成→B、目標値の60%達成→C、それ以下→Dとする。但し、項目によっては個別に、評価指標欄にて別途基準の作成可。

学校運営	運営方針に沿った事業計画を策定し、その達成に努める。	・上半期で事業の進捗度や達成度を点検し、成果と課題を明らかにするとともに、下半期に向けての見直しを図る。 ・年度末に事業が達成できたと自己評価する職員が80%以上になるよう目指す。	A	職員会議に提出される議案事項や事業案等、年度計画の達成に向け全職員が一丸となり、遂行されている。	A	A	朝礼・終礼・職員会議など、日別・月別・学期別に、年間目標からの進捗状況や成果、課題について分科会も実施し、全職員が事業計画に基づき達成したと分析している。	次年度に向け、新たな目標を設定し、向上心を持って、日々の努力を怠らず、積極的に全教職員が一丸となり業務を遂行する。	
	教員の組織体制や就業規則に関する規定を見直し、再整備する。	・検討委員会を立ち上げ、具体的な検討を進めながら、見直しの達成度合いで評価する。	A	職員会議や経営者会議などを実施し、就業規則の見直しや働き方について検討を重ね、時代に合った組織強化が図れている。	A		美容業界をはじめ、教育指導経験者を変え、常に相談が出来る環境が整備され、定期的に会議を実施した。次年度よりは就業規則も移動し、働く環境と指導する組織体制の強化を図る。	美容業界との連携強化、地域社会との関係性を深める事により、今後の充実した学校創りに反映していきたい。	
教育活動	授業の工夫と各科目の学力向上	・分かりやすい授業を目指し、成績不振生徒に対する指導では、理解度・習熟度に応じた指導を行う。 ・成績不振の生徒数を1・2年とも20%減を目指す。	A	成績不振者の割合 (教科平均60点未満) 1年生 = 0% 2年生 = 10.5%	A	A	成績不振者の割合 (教科平均60点未満) 1年生 = 0% 2年生 = 0% (全生徒が進級・卒業)	常に全生徒への国家試験合格100%を目標に、規則正しい学習環境と成果を求め、教育支援を行う。	
	技能五輪と学生大会の金賞獲得に向けた指導方法の再構築	・計画的・組織的に指導方法を再構築し、技能レベルの維持向上を図る。 ・技能五輪は連続して上位入賞をめざす。近畿学生大会には、5名以上の優秀賞を出す。	B	技能五輪全国大会 敢闘賞2名 近畿学生大会 優秀賞1名	B		技能五輪全国大会 敢闘賞2名 近畿学生大会 優秀賞1名 その他フォトコンテストなども入賞	少人数ながらの決め細やかな指導を実施し、全国、世界NO1の学校を目指す。	
	通信課程のカリキュラムの再構築	・他校のカリキュラムを参考にして、学びやすく効果の上がるカリキュラムを構築する。	A	大阪府の美容専門学校との連携による技術指導者の研修会を実施。	A		今年度の組織強化の一つである通信課における指導上の基本理念の構築に関し、全員合格への指針が完了、さらに各教員の資質向上が図れた。	次年度に計画された、他校との連携事業を成功させ、個々では満たない教育指導の充実を志す。	
	社会人としてのルールやマナーの確立	・朝のあいさつ運動や言葉遣い等をきめ細かく指導し、自然と身に付くよう反復させる。 ・接遇研修を実施し、接遇マナー検定の資格を取得させる。	A	登校時の挨拶運動を実施するなど、様々な工夫を行っている。 接客マナー検定 合格率100%	A		定期的に実施された「挨拶」運動をはじめ、教職員が登校時に校門前に立ち、全生徒への挨拶運動を1年間実施したことにより、自然な声掛け、礼儀、笑顔、挨拶が実現した。	当たり前のことが当たり前でできる教育を探究心を持って行う。	
学修成果	国家試験合格률을上げる。	・国家試験準備のための学習計画を作成し、段階的な指導を行う。合格率は、昼間課程100%、通信課程80%以上を目指す。	B	前期国家試験結果 通信課程 合格率 76.5%	B	B	後期国家試験結果 通信課程 合格率 39.6% 昼間課程 合格率 93.8%	全生徒 全員合格を目指す	
	退学率の低減に向けた取り組み	・定期的な個人面談を実施し、学生一人一人の状況を把握し、的確なアドバイスを行う。退学率は、昼間課程5%、通信課程20%以内を目指す。	A	上半期の退学率 昼間課程 0% 通信課程 1.4%	A		平成30年度の退学率 昼間課程 9% 通信課程 2.1%	全生徒が揃って卒業できる学校が、今後の学校経営における差別化となることを念頭に業務を遂行する。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策と評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)				
			自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析)	
学生支援	希望進路の実現	・組織的な就職支援体制の確立。就職率の向上を図るためガイダンスを2回実施し、希望進路の内定率100%を目指す。	A	4月16日・4月23日に就職ガイダンスを実施。	A	A	平成30年度 就職率 100% (全体) 18.7% (県外就職) 81.3% (県内就職)	全生徒の就職に向けた取り組みが全職員で実施でき、生徒の可能性や将来への夢の実現に期待する。	
	経済的支援体制の整備	・学費の減免措置を継続するとともに、分納・延納制度を通して支援を行う。 ・就学支援のニーズ等を把握し、早期の解決策を提案する。	A	振込・振替など保護者の納入方法の利便性の改善に加え、支払方法の相談などきめ細かく対応している。	A		国民金融公庫をはじめ、銀行からの教育ローンや民間の教育ローン、無利子による学期内分割制度など個々の状況を鑑み、様々な相談窓口開設し、決め細やかな対応を実施した。	様々な環境があり、様々な支援体制があるため、常に研修や情報収集にあたる。	
	保護者との適切な連携	・三者懇談を充実させ、保護者ときめ細かく情報共有を行う。 ・1学期の三者懇談は全員を対象にする。2・3学期は問題を有する生徒について懇談を実施し、状況に応じて家庭訪問を実施する。	A	1学期の懇談は個別の生活・学習状況に応じて実施し、特に問題のある学生のみ三者懇談をした。	A		三者懇談や放課後の担任との会話など、生徒一人ひとりの進路や生活などをサポートできるよう心がけ、教職員間の連絡も密に行った。	個々の家庭環境や地域社会での存在を把握し、適切な指導ができるよう教職員の研究や勉強会を行う。	
教育環境	施設・設備の安全の徹底と防災体制の整備	・各担当者による毎月の安全点検と年4回の危険箇所点検を実施する。	A	安全点検・危険箇所点検の継続的な実施の徹底を強化、見直しをする	A	A	安全点検・危険箇所点検の継続的な実施の徹底を強化できた。	命の大切さを考え、今後も継続的に本業務を遂行する。	
	学校の環境美化の推進	・毎日の清掃、週1回の大掃除、学期末の大掃除により学習環境の整備に努める。	A	全校舎・地域清掃も含め、実施させた。	A		毎週火曜日に実施する地域清掃をはじめ、美容師としての心構えとしての清掃活動に年間を通し計画どおり実施できた。	今後も継続的に実施する。	
学生募集	学生の獲得に向けた広報活動の充実	・魅力的な広報誌やホームページの作成により、学校生活や学習成果を効果的にアピールする。 ・ナラ・ウェブやホームページで学校の情報を地域や保護者に提供する。	A	様々なツールを使用した広報活動に努め、機関紙による情報提供を行った。	A	A	様々なツールを使い、効率的に募集活動を実施した。	今後も継続的に実施する。	
		・県内を中心とした年3回以上の学校訪問を実施し、本校の認知度を高める。	A	5・6・7月に高等学校訪問を実施。11月に中学校訪問を計画している。	A		5・6・7月に高等学校訪問を実施。11月・12月に奈良県全域の中学校への訪問を実施した。	今後も継続的に実施する。	
財務	学校の財政基盤の安定	・学生数の確保を図り、入学定員の充足を目指す。 ・在学生数に対応した効果的な財源配分を行い、経費節減を図る。	A	通信課程 48/80名定員であるが、昼間課程の募集状況が厳しいと予測される。	C	B	昼間課程の募集状況が目標値には届かなかった。昼間・通信とも安定的な入学者数を保つ創意工夫が必要と感じる。	次年度に向けた課題と組織強化、新しい募集体制の強化を図る。	
	有効かつ妥当な予算・収支計画の設定	・毎年、前年度の実績や諸事情を踏まえた確実な収入見直しを行い、理事会・総会の承認を得て計画設定を行う。 ・予算の進行管理を徹底し、収入の確保と適正な予算執行が図れたかどうかで評価する。	A	理事会・総会の承認を得て、適正な予算・収支計画が執行された。	A		理事会・総会の承認を得て、適正な予算・収支計画が執行された。	今後も継続的に実施する。	
	財務についての適正な会計監査の実施	・会計士・税理士による月例経理指導を受けるとともに、監事による定時検査の実施と理事会・総会への監査報告の実施。 ・監査機能が確保できているかどうかで評価する。	A	顧問弁護士、税理士の指導のもと監査・理事会・総会の承認を得て、適正な会計監査が実施されている。	A		顧問弁護士、税理士の指導のもと監査・理事会・総会の承認を得て、適正な会計監査が実施されている。	今後も継続的に実施する。	
	財務情報公開の体制整備	財務情報を公開された状態にするとともに、毎年、理事会・総会に示し、組合員全員に送付する。	A	通常総会が開催され、財務等における情報公開が行われた。	A		通常総会が開催され、財務等における情報公開が行われた。	今後も継続的に実施する。	
社会貢献・地域貢献	学校の教育資源を活用した地域貢献の実施	・県や地域の事業に学生を積極的に参加させる。 ・毎週1回通学路を中心に清掃活動を行い、学校周辺地域への美化に努める。	A	地域清掃をはじめ、神武祭や地域で開催するフェスティバルなどに参加するなど積極的な活動ができた。	A	B	地域清掃をはじめ、神武祭や地域で開催するフェスティバルなどに参加するなど積極的な活動ができた。	地域連携の考えを国際的な視野に立ち新たな展開を考える。	
	公共職業訓練の更なる充実	・求職者支援・委託訓練についての受託は、積極的に実施する。 ・面接を通し、90%以上の就職率を目指す。	B	平成30年度実施 総合美容科 1コース実施	B		就職実績を成し遂げた。しかし、就職先での雇用保険の未加入など、就職後の訓練生の安定的な生活の継続に課題が見られる。	今後も継続的に実施する。	